

岡本裕美会長をはじめ、東京都臨床工学技士会の皆様におかれましては、平素より温かいご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

とりわけ、2020 年から続く新型コロナウイルス感染症流行下においては、医療現場の最前線を担い、重症患者の E CMO 管理や、ワクチン接種の担い手、医療機器を介した感染対策徹底、透析患者等の感染症に弱い方々を守る取り組み等にご尽力頂いておりますこと、最大限の敬意と感謝を表します。

2018 年 5 月に「臨床工学技士の資質向上を求める議員連盟」(現 臨床工学技士を支援する議員連盟)が発足して事務局長を拝命し、タスク・シフト/シェアや養成過程の充実など、臨床工学技士の皆様の活躍推進に取り組んで参りました。これまで計 4 回の総会と 3 回の役員会を重ね、厚生労働大臣への要望活動などを行い、2021 年 5 月にタスクシフト・シェア等を盛り込んだ臨床工学技士法の改正が実現したほか、2022 年度診療報酬改定で集中治療室や重症患者搬送等での臨床工学技士配置に対する評価も新設されるなど、大きな成果を上げることができました。また、新型コロナワクチンの打ち手に臨床工学技士を追加することも厚生労働省に働きかけて実現できました。

さらに、議員連盟発足当初から課題として指摘されていた国立大学における臨床工学技士養成プログラムの欠如についても、2023 年 4 月、大分大学医学部に先進医療科学科臨床医工学コースが設置されることとなり、悲願成就となります。

これだけの成果を上げることができたのも、偏に臨床工学技士会の皆様が現場からの声を我々国会議員に精力的に届けて下さり、また告示研修の実施に向けた自主的な取り組みなど不断の研鑽を重ねていらっしゃることの賜物と存じます。個々の現場でのタスクシフト・シェア推進の取り組みについても心から応援しています。

今後も、医学と工学の知識を併せ持つ臨床工学技士の皆様の活躍の場は一層大きくなって参ります。プログラム医療機器 (SaMD) など医療機器の高度化が日進月歩であるほか、介護や在宅にも高度な医療機器が使用される場が拡大しています。さらに、身代金要求型コンピューターウイルス「ランサムウェア」による被害で地域医療が混乱に陥る事態も発生するなど医療機関へのサイバー攻撃が深刻な問題となり、内閣サイバーセキュリティセンター (NISC) と協力して医療機関を支援する「医療 ISAC」の構築が求められる中で、サーバーセキュリティの担い手としても臨床工学技士の皆様には大きな期待が寄せられています。

議員連盟事務局長として、引き続き皆様の活躍を全力で応援して参ります。変わらぬご指導ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。